



①「旧体育館を壊すべきではない」と訴える有識者の会のメンバーら＝千代田区で ②囲いがされ、解体工事の準備が進む旧体育館＝杉並区の東京女子大で (有識者の会提供)

東京女子大
旧体育館

「壊してはならない」

有識者の会 解体工事に抗議



東京女子大学(杉並区)が八十五年の歴史ある旧体育館の解体を計画している問題で、保存と活用を求める建築家や卒業生らでつくる有識者の会(代表・前野まさる東京芸術大名誉教授)が二十五日、千代田区内幸町の日本記者クラブで会見

し「日本の女子大学の歴史をたどる貴重な建築物を壊してはならない」と訴えた。

この日、大学側が旧体育館を立ち入り禁止にし、解体工事の準備を始めたため、急ぎよ

る予定。

神奈川大の内田青蔵

教授(建築学)は「旧体育館は学生と教員が交わる社交空間。大学創立者の理念を具現化したものであり、建物を壊すことはその理念を消すことにつながる」と危機感を表明。

東京女子大の卒業生からは、ジャーナリスト藤原房子さんが「卒業生を外部の人とみて、大学側は要望を聞き入れない。耐震性も十分あり、あっさり壊す理由は何もないはずだ」。柏木恵子名誉教授は「大学には卒業生

の研究業績に触れられる場所がない。旧体育館を保存して、図書館コーナーを設置すべきだ」と提言した。

同会は今後も、保存を求める教員や学生と協力して、大学側に解体工事の中止を求めていく方針という。

旧体育館はチェコ出身の建築家A・レーモンドの設計で一九二四年に完成。大学側はキャンパス整備の一環で旧体育館を解体し、跡地を芝生広場にする予定だ。(小川慎一)